

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700048		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	グループホームかぶとむし		
所在地	長崎県平戸市田平町深月免405番地1		
自己評価作成日	令和4年9月25日	評価結果市町村受理日	令和5年1月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に恵まれた環境の中で広々とした施設が特徴 一年を通して季節を感じて頂けるよう行事を行い、その人らしさを大切にアットホームな雰囲気の中で生活できるよう支援している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは自然豊かな田平地区の山合の緑に囲まれた長閑な場所にある。近隣のロータリー状の道路では入居者が日差しを浴びながらゆっくりと散歩を楽しまれている。ホームの菜園には季節の作物を植え、収穫したさつまいもを玄関先で焼き、おやつとして入居者に食べてもらう等、食への楽しみの支援に繋がっている。管理者は、コロナ禍で家族との面会制限がある中、定期的に入居者の写真を撮り家族へ送付したり、入居者の様子を電話で報告する等関わりを継続しており、その姿勢が家族のホームに対する信頼感の向上に繋がっている。2ユニットの職員間で協力し合い、畑で収穫したスイカ割りや、バーベキューの開催等、広い屋外を活用した多種多様なレクリエーションを催し、家族も来訪してイベントが楽しめるよう工夫している。コロナ禍の中、入居者の生きがいに繋がれることを見出しながら、その人らしい生活と自立を支援されており、今後も入居者支援に大いに期待できるホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名(てんとうむしユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の玄関ロビーと各ユニットへ掲示している。毎朝の朝礼時に唱和し、理念の共有に努めている。	理念は各ユニットの共有空間に掲示し、いつでも目にする事ができる。職員は理念のもとで年度ごとに目標を立て、管理者とともに毎年4月に前年度の振り返りや達成度を確認し、次年度の目標を立て、入居者支援に意識付けている。法人独自の『Do-CAPキャリアシート』を活用し、個人ごとに上半期、下半期で評価を実施している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域交流を自粛している。	ホームはコロナ禍の中、運営推進会議メンバーである元地域館長や、警察署勤務者、民生委員を通して地域の情報を得、ホームの現状を伝える体制を整えている。地域で行う花いっぱい運動の活動では、北松農業高校の生徒が育てた花をホームに頂くなど、コロナ禍で交流を自粛している中でも、可能な範囲で地域との繋がりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、控えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染状況を考慮しながら、管理者が関係各所へ調整し開催している。	コロナ禍の中、運営推進会議は地域の感染状況を判断した上で対面会議を開催し、入居者のホームでの日常生活状況のほか、特にヒヤリハット及び事故については詳細に報告している。各メンバーからの意見は運営に反映し、運営の透明化を図っている。	運営推進会議メンバーからの意見は手書きで記録に残しているが、議事録に反映していない。会議で審議した内容や経緯が家族等の関係者にも分かりやすいよう、意見や助言等の発言内容を会議録へ残すことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心とし、運営推進会議開催時や手続き関係での連絡を取る際に事業所の状況をお伝えし、情報共有を行っている。	市長寿介護課・介護保険係の職員が運営推進会議に参加し、その際にもホームの実情を伝え、意見や質問を受けている。社会福祉協議会と入居希望者の紹介等、相互に連絡を取り日常的に連携を図っている。 保健所にはコロナ陽性報告や、その後の経過を記録に残し、詳細について報告を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われているユニット会議において、身体拘束防止マニュアルの読み合わせをし、ケアを行っていく上で注意する点として意識の統一を図っている。	月1回のユニット会議において虐待・身体拘束防止マニュアルに沿って虐待・身体拘束防止への理解と確認を行っている。虐待・身体拘束に関するマニュアルを職員がいつでも見ることができる場所に置き、虐待・身体拘束について職員は支援の振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同上。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について実際に利用しているご利用者も在所しているが、詳細な内容については把握しきれてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者よりご利用者やご家族に、契約の説明が行われ、ご不明な点があれば、納得される説明を行い、ご理解を頂けるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、年1回開催していた家族会議が開催できていない。その為、封書という形で、現在の施設の状況をお伝えし、月1回行われている、運営推進会議でご家族代表にご意見や要望を聞き、意見交換をしている。	管理者は家族へ定期的に連絡し、入居者の日頃の様子や変化について報告している。介護計画見直し時には計画作成担当者が家族へ意向を聞き取る等、家族に安心感を持ってもらえるよう努めている。家族が面会した際には、対応した職員が聞き取った内容を記録に残し、職員間で情報を共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を実施し、議題に出されたことは、リーダー会議で提案し、管理者とリーダーの話し合いの結果を各職員が共有し業務にあたっている。	毎月のユニット会議や、半年に1回開催する全体会議を通じて、職員が日頃の支援に関し運営上の意見等を発言できる機会がある。出された意見や要望は管理者と各ユニットのリーダー会議で検討し、内容によっては法人本部に上げる等、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	Do-CAPシートを作成して、管理者との面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Do-CAPシートの作成実施。リモート会議、リモート研修を受講しているがコロナ禍もあり不十分なところはある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を主にリーダーや計画作成担当者が同席し面談を行い、アセスメント作成。不安点や要望を事前に把握し、対処手段を早めに検討し入所者にあつたサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が主に面談を行い、要望を伺ってユニット職員に申し送り計画作成者を中心に具体的内容を検討実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と一緒に新聞折り、洗濯物たたみ等を、一緒に行いながら、談笑し交流を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍という状況であっても、窓越し面会を行い、ご利用者の状態や日常生活状況について、お話し情報共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況を見ながら、ドライブを実施し、ご自宅や近隣地域周辺を訪れたりしている。ご家族以外の知人も、窓越し面会を実施している。	コロナ禍の中、多目的ルームの中に入居者、外に家族等、外部の来訪者と面会ができるよう取り組んでいる。天気が良い日は外出の計画は立てていなくてもその日にドライブに行くなど、外出のチャンスを逃さないよう工夫している。管理者はホームで生活する入居者の日頃の様子を写真に撮り、便りやメールで家族へ発信しており、家族に安心してもらえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物星やたたみ等の家事作業、他軽作業等、ご利用者同士が役割分担をされ、協力しながら取り組まれている。ご利用者とのふれあいを大切にすることで孤立するご利用者はなく、全員が穏やかな毎日を過ごされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者を中心に、退去後の情報収集。また情報の提供を行っている。職員も外部でお会いした際には、ご家族にお声をかけたり、ご利用者のご家族の近況をお聞きするなどの交流に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネと居室担当を中心に、ご利用者の希望や要望を確認している。また面会時や、電話連絡にてご家族の意向を確認し、担当者会議での検討を行いながらケアプランに取り入れている。	職員は入居者との日頃の会話の中で新たに知り得た情報をメモに残し、他の職員との申し送り時には口頭で伝え、日々の日誌に記録している。必要に応じて介護計画見直し時に管理者や介護計画作成者とユニット会議で検討し、計画に反映させている。意見の表出が少ない入居者は家族へ意向を聴き取り、本人本位となるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時や電話連絡時に状況の把握に努めている。その際はご本人だけでなくご家族にも状況を伺っている。また実際の入居に際しては、ご本人が安心できるように、(小型の)家具や持ち物・衣類・食器等をお持ちいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察を行い、ケアノートへの入力と口頭・申し送りノートでの伝達を行っている。また居室担当者を中心にご利用者個人のアセスメントシートの見直しを行い情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の状態観察を集約し月次で各担当がモニタリング情報を作成している。ご家族面会時等に伺うご要望と併せ、ケアプラン更新時に実施するユニット内の担当者会議で整理した事項含め、計画作成担当者を中心にケアプランを作成している。	入居者の担当職員が日頃の記録等を基にモニタリングを行っている。管理者は家族の面会時や電話連絡時に意向を聞き取り、各ユニットの担当者会議にて検討し、計画作成担当者が計画の原案を作成している。ケース記録には短期目標に沿って採番し、職員が介護計画の内容を意識した支援ができるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯および夜勤帯でそれぞれご利用者毎に記録を作成している。体調不良等により注視が必要な状況の場合は、申し送りノートや口頭にて情報周知を図っている。また、記録に関しては月次で生活状況を集約したモニタリングを作成し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに挙げる基本方針は遵守しつつ、日常的に変動するご利用者の状態変化には注意深く対応している。ご利用者に応じ、食事・水分補給の時間帯、入浴日・順序の変更、無排便時の緩下剤使用、皮膚疾患軟膏の塗布、外出支援等を実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策の為、窓越しの面会を行い、以前行っていた外部との交流は中止している。図書館からの図書借り入れは継続。訪問カットは本年5月に施工しているが、感染状況を踏まえながら検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医院と連携し、定期的および随時での受診を実施し、随時ご家族への報告を行っている。またコロナウィルスの蔓延時には主治医の指示の元、受診または内服のみの処方を受けて対応を行っていた。	管理者を中心として提携医への受診同行を行っている。在宅時からのかかりつけ医へ受診を希望する入居者にも管理者が継続して受診ができるよう配慮しており、本人や家族が安心して医療を受けられるよう柔軟に対応している。受診時には入居者のバイタルや体重の増減が分かるようケース記録を持参している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職を兼務しており、朝礼時の申し送りや、ご利用者に変化を報告し、判断・指示を受けている。病院への受診となった際にはサポートを実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者を通じ、情報提示と交換を行い情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては実施していない。重度化については、まずは日常の状況を予めその都度ご家族にお伝えしている。その上で重度化が進行する場合は必要な対応・介護計画を立てながら、併せて面会時等に状況をご報告し情報を共有している(同法人内の特養へのご異動相談含)	ホームでは看取りの支援は行っていない。入居者が重度化の傾向が見受けられた場合、管理者が家族へ連絡し今後について意向を確認している。症状によって医師に紹介状を依頼し、病院への入院や法人内の特別養護老人ホームへ入所の手配等、ホームでの対応を家族に説明し家族の意向に沿った支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、市消防局より講師として来設いただき、AEDの使用方法を中心に実技を含めた講習会を実施し、非常時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回、市消防局と協力し日中想定と夜間想定での避難訓練を実施している。実際にご利用者にも協力をお願いし、避難・誘導も行なっている。消火器とAEDの設置個所を確認し、非常発電機の操作方法の確認も行っている。 自然災害についての訓練は未実施。地域との協力体制は運営推進委員の方が2名近所へお住まいでありすぐに駆けつけて頂けるようお願いしている。駐在署員の方にもお伝えしている。	年2回、消防署の立ち会いのもと入居者とともに昼間及び夜間帯を想定した避難訓練を実施している。前年度は自然災害訓練を実施できなかった為、今後、実施計画を立案する予定である。近隣住民である運営推進会議メンバーへ有事の際の協力を依頼し、態勢を築いている。備蓄品の管理は管理者が担当し、賞味期限等を点検して入れ替えを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉遣いに気掛け、スタッフ間でも声を掛け合い注意している。プライバシー面では排泄時と入浴時に、扉を解放したままにしない等の基本を重視している。	接遇マナー等の研修は中堅職員やリーダーが参加し、職員全体へ報告・共有している。職員は方言を用いて入居者と会話したり、入居者の性格を理解した上でその方の特性に応じた言葉使いにより、本人の尊厳を保ちながらプライバシーに留意した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の要望に応える為に、話を傾聴しサポートを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせてるように、こちらの説明を行いつつ、状況を見ながら対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男女共に衣服の汚染に気を付けている。特に男性は髭剃り、女性は整髪と身だしなみを整えている。外出の際には、入念に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は外部の配食業者を使用しているためスタッフにて実施し、献立も決定している。下拵えや、下膳やテーブル拭き等の簡単な作業をお願いしている。 食レクを通じて、簡単な準備を作業してもらい、食への意欲を引き出している。	入居時に嗜好やアレルギー調査を行い、入居者の心身状況に応じた食事の提供を行っている。入居者にごぼうのささがき等の準備作業をしてもらい等、食事に関わりが持てるよう工夫している。畑で穫れたさつま芋を庭先で焼いておやつとして提供したり、ドライブ時に好みの弁当を選んでもらい外出先で楽しく食事ができるよう工夫するなど、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や栄養バランスについては配色業者のメニューを使用しているため、基本的には管理していない。 食事量は毎食チェックし記録に残している。食事形態もご利用者の状態に応じて、ミキサー食や刻み食にし、提供している。 また、食事量が少ない方に関しては、捕食の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に実施。ご利用者の状況に応じ、義歯用ブラシの使用、口腔消毒用品の使用、ご本人によるケアが難しい場合には介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認を行い量と状態の記録をし、排泄パターンを考慮してトイレ誘導を行っている。トイレに行かれない方もおられるので、定期的に声掛け、誘導を行う事もある。	排泄表に記録を残し、入居者のトイレ誘導、排泄介助を行っている。排泄の自立支援に力を入れ、入居者ごとに排泄の間隔を把握し、トイレ誘導にてできる限りトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。継続できる支援を実践し、入居者が不快な思いを抱かないよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の量と形状を記録し、併せて食事量と水分量と照らし合わせて、看護職へ報告を行い緩下剤・坐薬の使用している。 朝食時には牛乳を提供し、午前と午後のレクリエーションにて体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者ごとに入浴日を設定しているが、体調やその時の気分により、入浴日の変更を行っている。また、身体の状態により、機械浴か個浴での入浴を分けている。	入居者ごとに曜日により入浴日を設定しているが、日曜日以外は湯を沸かしており、入浴日以外にも希望に応じるなど柔軟な入浴支援を行っている。入居者より体調不良や入浴拒否があった場合も無理強いせず、臨機に対応している。浴室内の中央に浴槽があり、左右から介助ができることで職員の介護負担軽減に繋がっている。入居者の状態に応じて機械浴を使用し、安楽に入浴ができる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の体調や、要望に応じ休んで頂いている。居室の温度調整や換気を行っている。休まれる時間については、特に制限は設けていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	詳細な薬剤情報までは把握しきれてはいないが、概要で既往歴や治療/服用中の状態(高血圧症・糖尿等)の確認は行っている。特に病院受診後の服薬変更については、看護職からの情報提供を受け、その後の日常生活の変化について状況観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業が得意な方には貼り絵や塗り絵、パズルを提供したり、洗濯物を干すのと畳むのを依頼している。TVを見て過ごされる方もいるので、常に視聴して頂けるようにしている。女性の方には食レク時に、おやつ作りのお手伝いと、作って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに、ドライブにお連れし気分転換を図るようにしている。コロナ禍ということで、車外へ出てもらう事は、ご遠慮していただいているが、天候が良い日には施設敷地内にておやつを提供する等している。	コロナ禍で外出が困難な中、春には入居者全員参加で西海橋公園へのドライブが実現した。トイレや使用できるコンセント類等の準備や、外出先の入念な下見と万が一のことを見据えて吸引器を持参し、入居者、職員が共に安心して楽しめる外出支援に取り組んだ。天候や時季をみて日常的にホーム近隣のロータリー状の道を散歩に出かけ、外気浴ができるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫にお預かりし、私物などの購入時には使用するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有されている方はいるが、現在は使用しておらず、施設の方へ電話をして頂き、取り次ぐようにしている。 お手紙や荷物が届いた時には、お礼の電話をし、お話しをしてみたり、ご家族様からの伝言をお伝えするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用される共用空間は、1日2回清掃し清潔を保つように心掛けている。家具の設置では、移動の邪魔にならない程度とし、動線の確保に努めている。 壁面には季節感を感じてもらえるように、四季を表現した作品を掲示している。	ホームのフロアは清潔を保持できる環境作りに努め、清掃のほか、感染予防対策として吹き抜けの天井窓を開放し、外の新鮮な空気を取り入れた換気を行い、入居者が心地よく過ごせるよう工夫している。共用空間は入居者と共に作成した季節ごとの作品を壁に貼り、四季を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の落ち着かれる場所があるので、ご自由に過ごして頂いている。お一人で過ごされるのを好まれる方もいるので、座席の配置に気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とご本人にも相談し、入居時に使い慣れた私物や家具を持ち込んで頂いている。手の届く範囲や目に見える所に配置している。	入居者が入居前から大切に使用していたものを持ち込まれており、各居室はその人らしい居室作りとなっている。窓にはレースカーテンが施され、入居者や家族の好みのカーテンを設えることができる。夫婦部屋となる居室もあり入居者の意向に沿った居室ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誘導時の声掛けや、これから行うことを説明しご利用者が理解していただけるようにしている。トイレや居室が解らない方には、名前を大きく書いた紙をドアに掲示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290700048		
法人名	社会福祉法人白寿会		
事業所名	グループホームかぶとむし		
所在地	長崎県平戸市田平町深月免405番地1		
自己評価作成日	令和 4年 9月 25日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 4年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に恵まれた環境の中で広々とした施設が特徴 一年を通して季節を感じて頂けるよう行事を行い、その人らしさを大切にアットホームな雰囲気の中で生活できるよう支援している</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名(みつばちユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づきできる限りご利用者の要望に沿った対応を行っている。理念は玄関、各ユニットに掲示し毎朝の朝礼で唱和し実践を心掛けている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症防止で日常的な交流はできていないがそのなかでも行事がある時は(廃品回収や花いっぱい運動等)限られた範囲では幾らか地域交流行事は継続できている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で学生受け入れ実習が殆どできなかった。また、地域の方々への情報発信を行っておらず活かすことができなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の生活や状況取り組み等内容を報告し意見交換や助言を頂きサービスの質の向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において日々の状況をお伝えし理解を頂いている。また、施設内コロナ感染の発生時には密に連絡を取り感染症拡大防止を強化した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全で自由な暮らしができるよう安全確保に努め個々にあった対応ができるように心掛けている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のユニット会議において身体拘束虐待防止の理解を深め意識を持つよう確認している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	説明を受けてはいるが制度活用については至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約事項等については管理者が中心となり十分に説明し同意を得ている。また、要望や不安な思いは可能な限り意向に応えられるよう努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご利用者のご家族代表が参加されており外部者の意見を取り入れる機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や相談は毎月のユニット会議を設けた後リーダー会議において管理者同席のもと検討している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自キャリアパスシートの作成管理者面談(随時)管理者よりさらに上司への報告相談の流れとなっており、また、給与水準人事等の待遇面においては法人本部が就業規則等の取り決めを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通常新人職員には業務マニュアルを基にユニット職員が付き添い業務を行っているが慢性的な人手不足によりうまく機能していない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により通常が機能していない為左記取り組みは厳しい状況であった		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を元に、ご本人の気持ちに寄り添い介護支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望にはできる限り傾聴し支援を行い信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者の現況を入居前面談にて把握、ご利用者、ご家族のニーズを捉え、それを職員へいち早く伝達している。その情報を受け、計画作成担当者を中心に具体的な支援内容を検討、実施に繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な寝具類のシーツ交換、洗濯物干し、おしぼり巻き等の軽作業を共に行いご利用者を尊重した関係性を築くよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍によりご家族との面会は窓越での面会としているがひと時の時間を設けその方の現況であったりご家族のご要望を伺っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出ができなかったり、ご家族との窓越し面会の現況、地域交流の未実施で支援に不足がある。しかし、ご家族への現況報告、定期的な広報誌の配布、遠方のご家族へはメールで写真を送信し可能な限りは支援した		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り話題作りをし笑顔や発語が少しでも多く見受けられるよう支援した		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣でもあるので退所後もご家族とお会いする機会がある。その時はお気軽にお話を伺う。またご近所で困られた方がいないか、もしくははいらっしゃる場合等相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議的だけでなく日常会話も含めご利用者本人にご意向を伺っている。ご本人からの意思疎通が困難な場合、ご家族へご意向を伺っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に管理者がご本人面談を行い今迄の暮らしぶりなどを聞き取りアセスメント作成、そして情報共有を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察をケアノートへ記録し何か変化があれば更に送りノートへ記載、職員の情報共有に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族から意向を伺ったうえで担当者会議で話し合いを行いケアプランを作成している。毎月のモニタリングに状態の変化があった場合には記述し現況に応じたケアプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌の入力や申し送りノートの活用にて情報の共有を図っている。毎月のユニット会議において各ご利用者の現況について意見交換を行っているがそれをもとに介護計画の見直しを行う		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染症拡大防止の為、できることが限られているが各ご利用者ご家族の要望を含め支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染症拡大防止の為、現況はできていない。花いっぱい運動、移動図書館の協働程度		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医があることを管理者より説明する。しかし従来の病院から変わりたくないとの強いご要望があればそのご意見を尊重する。定期受診(毎月、2カ月に1回)は全ご利用者管理者が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が何らかの変化を伺った場合、管理者へ報告、指示を仰いでいる。定期受診(毎月、2カ月に1回)は全ご利用者管理者が対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者が定期的または随時入院医療機関へ出向き都度状況を把握するなど医療機関との入退院の連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度の重度化やADLの低下が伺える場合段階定期にご家族へ話しをし、また、病院との連携も図りながら不測の事態に備え職員間でも情報を共有している 看取りは未実施		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度は所轄消防署指導のもと、AEDを使用した救急救命訓練を実施しているが昨年度の年度末から今年度年度初めに県内、市内のコロナ感染症増の為、未実施だが日頃より初期対応については即実践できるよう備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災時もしくは火災を未然に防ぐことについては所轄の消防署指導のもと訓練を受けているが、自然災害についての訓練は未実施。地域との協力体制は運営推進委員の方が2名近所へお住まいでありすぐに駆けつけて頂けるようお伝えしている。駐在署員の方にもお伝えしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ここにあった言葉掛けや対応を日頃より注意するよう心掛けている。また、人格とプライバシーを損ねないよう対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者に合わせ、時に相談しながらできるだけ希望に添えるよう支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりの生活リズムに合わせた支援を行っているが、共同生活の為、他のご利用者の関係性を考慮しながら対応、ときに十分に対応できない場合がある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ化で定期的に訪問理容を受け入れることができず、特に女性ご利用者は髪が伸びすぎその場合には髪留め等を使い身だしなみを整え日々の整容支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会ではご利用者の要望を取り入れた献立を立てたり外食やおやつ作りを一緒に行ったり食べる為の楽しみを心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し摂取状況を把握している。また、個々の体調に合わせて嗜好品の提供も行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状態やADLに応じた口腔ケアを行っている。また、義歯を使用されている方は夜間に洗浄、消毒を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を基に排泄パターンを把握しトイレ誘導介助を行っている。夜間はなるべく入眠を妨げないようご利用者に合わせた排泄支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い便秘時便秘気味ご利用者には飲み物を工夫し摂取を促している。日中に排便できるよう便秘薬の服薬支援も行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者のADLに合わせて個浴と機械浴に分けている。また、受診日と重複しないよう調整し週3回は入浴できるよう支援している。事前にバイタル測定しご利用者の体調を確認したうえで入浴の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションなどでできるだけ体を動かし安眠できるよう支援している。また、各ご利用者の生活リズムや体調を考慮し午睡も取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	氏名、日付、朝昼夕の事前確認を声に出し2名で確認後に服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやお菓子作り等ご利用者の個性を活かし負担がかからないよう活動を支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ対策の為気軽に出かけられることが厳しくなったが施設周辺の散歩や庭でおやつ時間をとるなどして気分転換を行って頂いている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でっており必要品や希望の物があればご家族の了承を得て購入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族に電話を希望されることはほとんどないが贈り物が届いた時にはお礼の電話入れた際にお話をして頂いている。また、コロナ禍の為、LINEを使用し写真を送りご本人の様子をお伝えしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はフローアと対面式となっており調理の様子や匂い、音が伝わりやすくなっている。壁には毎月の出来事の写真を掲載し季節も感じられるよう工夫している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性を考慮しテーブル席を配置している。また、各ご利用者の状態や希望でソファーやテーブル席で寛いで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の生活習慣を尊重し使い慣れた物や好みの物が使えるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせるように環境づくりを行い居室のネームやトイレの表示などわかりやすい様に工夫している		